

○2番（山口 等君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、2番山口等の一般質問を始めさせていただきます。私自身、議員になりまして最初の一般質問であります。また、初日のトップバッターということでいささか緊張もしておりますが、この壇上で質問ができることの重責と、また誇り、そして市民の代弁者として質問をさせていただきます。

私は、生まれも育ちも根っからの武雄の者でございます。現在、武雄市においても「わかもんプロジェクト」等によるいろんな取り組みが進められており、また、そういったまちおこしグループも数多く結成されております。我々の地域においても、まず地元を何とかしたいとの思いで川良区からまちおこしをやろうと、今から約13年前の平成9年に川良わかもん会というグループを立ち上げ、地域のいろんな行事に若い人に参加していただき、活性化を図ってまいりました。しかし、川良区は皆さん御存じのとおり世帯数も多く、武雄町の行事、区の行事におきましても、なかなかまとめることが大変でございました。しかし、地域の皆さんの協力で伝統芸能の浮立やいろんな行事でも、わかもん会は欠かすことのできないメンバーとなり、地域活性化のため、会員の皆さん頑張っていたいただいております。

この会も結成して10年以上が経過しましたが、特に樋渡市長が誕生してからのこの4年間は、市長のバイタリティーあふれる行動力の影響もありまして、我々にもより一層のパワーをいただき、地域行事も定着してまいりました。これからもっと若い人に積極的に参加していただけるようアイデアを出し合いながら、今後も努力を重ねていきたいと思っております。

このようなまちおこしグループによる地域の活性化が推進されることと同時に、また、市民の福祉の維持向上に努めてまいりたいと思っております。

それでは、質問に入らせていただきます。

今回は3項目の質問を考えております。まず1つ目に、まちづくりでございます。2番目に、道路行政、市道の維持管理についてでございます。そして最後に、旧市民病院の活用構想についてでございます。

最初に、まちづくりについてでございますが、私自身、地域行事にいろんな形で携わり活動をしてまいりましたが、このような活動をされている団体等も数多かろうと思えます。二、三の例で結構ですので、どうか御紹介ください。

そしてまた、去る7月29日、ミーティングホールで行われました協働まちづくり研修会に出席させていただきました。そして、各町のまちづくり取り組み状況を教えていただきました。市において、協働まちづくり地域交付金事業にも取り組んでおられるようでございます。この内容についても御説明をお願いします。

以上、よろしく申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

山田政策部理事

○山田政策部理事〔登壇〕

おはようございます。ただいま山口議員から御質問がありました、いろんな活動につきましてですけれども、まず山口議員が活動されていらっしゃる川良のわかもん会。もう十数年にわたり活動されているということで、取り組みについてはいろんな団体、スタートはどこでもされるわけですけれども、やっぱり続けるということについては非常に大変なエネルギーをお使いだというふうに思っておりますし、大変感謝しているところでございます。

市内にはわかもん会というふうな形で取り組みをされている部分もたくさんありますけれども、例を1つ、2つということでしたので取り上げていきますと、東川登町のほうではわかもん木曜会ということで取り組みをされているところでございます。町内のいろんな行事に対して、自分たちが中心になって参加をさせていただいている。また、市内のいろんなイベントのような大会についても中心となって出ているというふうな状況をお聞きしております。

また、橘町におきましては、ちゃりんこクラブというクラブがございまして、ここについても小学生とかそういう人たちの育成を図りながら、自分たちの活動も一緒にやっているとあるようでございます。

そのほかにもいろんな団体、活動されているところがありますけれども、一、二ということでしたので、あとはまた何かの機会に御紹介をしたいというふうに思っております。

次に、協働まちづくり地域交付金の説明をということでいただきましたけれども、これにつきましては、地域の特色を生かした個性的な住民総参加によるまちづくりということを目指しまして事業を行う各町のまちづくりの協議会、そういうところに限度額を設けて交付金を交付して事業を行っていただいているというところでございます。

この財源につきましては、地域振興基金を財源といたしまして、平成20年度から24年度までの5カ年間という事業期間の中で、各町におきましては3年間で事業をしていただきたいということで実施をいただいているところでございます。

各町におきましては、みずからこういうことをやりたいということで作成していただきましたまちづくりの推進計画に基づきまして、地域資源の活用事業、それから環境保全事業、地域安全確保のための事業とか、また郷土芸能の伝承事業など、いろんな地域の特色に合った事業を展開していただいているということで、住民の協働の中で行っていただいているというところでございます。

以上でございます。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

各町においても交付金の活用をして明るく住みよい、また元気なまちづくり、地域づくりを目指していろんな事業が行われております。しかし、この平成20年度に始まった交付金事業も平成24年度で終わるわけなんですけれども、ぜひ今後も継続支援をしていただくよう強くお願いするところでございます。

このまちづくり、人づくりについては、また幾らかの住民の負担も必要かと思われますけれども、このあたり市長いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、私はまちづくりにおいて、例えば住民税とか、所得税のほかの負担金ということについて、まちづくりを進めるという観点からいただくということは私は反対であります。これは税との統一性、あるいは整合性を考えたときに、一定の負担金を——これはだれが取るかというのはあるんですね。例えば、川良のわかもん会の皆さんたちがそれを取るということであれば、それは問題ないと思いますけれども、それを市が税金とは別の枠組みで行うということについては毛頭考えません。これだけ地域が疲弊をする、あるいは可処分所得が減っていく中で、そういった中で新たに負担を求めるということは到底私は容認はできません。

その上でもう1つ、まちづくり交付金、これは非常に好評いただいているんですけれども、住民訴訟を市が受けているんですね、これで多大な市民負担、住民負担がある中で、本当にこれが続けられるかどうかということについて非常に疑念を抱いています。そういった中で、私としては、これは財政当局ときちんと協議をいたしますけれども、場合によっては今まちづくり交付金で現在事業を行われている、あるいはまだ未交付になっているところというのはちょっとストップをせざるを得ない状況にあるのかなと、かように認識をしております。

もとより、まちづくりについては長くなりましたけれども、そういうお金の問題もありますけれども、積極的に——議員になる前の山口等議員がそうだったんですけれども、やっぱり市民が積極的に出ていって汗をかくと、その喜びを共有していくということが今武雄らしいスタイルなのかなというふうに認識しておりますので、そういった意味で、山口等議員におかれては今までの経験を踏まえて、そういった広がりやをぜひ推進力となって期待をしているところであります。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

本当に私もさきの6月議会の終了後に、議会報告としまして住民訴訟に関するチラシを地元の方に歩いて話をしながら配布したところでございます。そのときの反響なんですけれども、「もう決まっとうとやろうもん」とか、「まだ言いよおとや」とか、「税金をそがんとに使うとじゃなからうもん」と、そして、「訴訟はもうやめられんとね」と、そういうふうな声を大勢の皆さんさんから聞きました。このことについて、市長どう思われるんでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはユーストリームでも流れていますので、非常に注目されておりますので、いつものように言葉を選んで申し上げますけれども、まず、住民訴訟というのは日本国民の固有の権利であります。憲法に保障された固有の権利でありますので、その内容について、その手続について、私から触れるということは絶対にいたしません。その中で、これは私の家にも入っていたんですけれども、（チラシを示す）議員さんたちが——「発行 武雄市市議団」と書いてあるんですけどね、「市民病院民間移譲は平成20年12月の出直し市長選で決着したのに、なぜまだ住民訴訟なの」ということを書かれていて、その中で、やっぱりそこに——これは制度上の問題もあろうかと思うんですけれども、多額の市民負担、住民負担がそこに発生をするということについては、私はどうなのかなということは思っております。

もとよりこれは議決事項にもかかわらず、平野議員と江原議員が記者会見までされて、こういったことをされているということについて、どうなのかなということは感じざるを得ません。ただ、繰り返しになりますけれども、住民訴訟の中身そのものについて、私が申し上げることはございません。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

市民病院の民間移譲については、もう先に進んでいる問題でございます。この訴訟の取り下げというのはできないのでしょうか。市長、お願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これも住民訴訟の手続に係る話ですので、極めて一般的に申し上げますと、今回の住民訴訟というのは市民団体の方々から、十数名おられたと思うんですが、その方々から私じゃな

くて武雄市役所が訴えられているんですね、武雄市役所が。よく勘違いされて、私が訴えられているというふうになっているんですが、これは違います。武雄市役所が訴えられている。じゃ、何で訴えられているかという、ベッドをたたき売りしたとかなんとかというふうに言われて、その差額を私、樋渡啓祐個人に払いなさいという請求権を認めさせるのが今度の住民訴訟なんです。その額が21億円という、もうとんでもない額になっていて、それに関連いたしますけれども、そこで訴訟費用が一定額決まっているという流れになっているんですね。

ですので、取り下げについては、私ども、これは武雄市長として申し上げますけれども、私ども訴えられているほうですので、私が取り下げるということは、まずあり得ません。武雄市役所が取り下げるということは、まずあり得ません。ですので、これはもう私は当事者でありますので、これ以上答弁は差し控えますけれども、それは私たちの問題ではないというふうに認識をしております。武雄市民の良心、良識に私は従いたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

市長の思いはよくわかりました。一緒に戦っていきましょう。

次に、少子化、高齢化が一段と進んでおります。家庭教育力の低下はもちろんのこと、地域での教育力の低下も叫ばれております。

山内町においては、おじいちゃん、おばあちゃんと子どもたちが触れ合う行事、かしの実サークルというような事業も行われているようでございます。

武雄市においても次世代を担う子どもたちの教育向上のために、どのような取り組みがなされているのかお尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

現在でも通学合宿とか伝統芸能の伝承等々、9月の秋祭りを前に実際していただいているところかというふうに思います。

地域の教育力ということを考えましたときに、その環境として持っている教育力が文化財も含めましてあろうかと思えます。それから、安全性はどうかと、あるいは昔からの地域行事、そういうのはどうかと、あるいは地域環境として持っている教育力が1つあろうかと思えます。

それからもう1つは、地域に住んでおられる方々が持つておられる教育力があろうかというふうに思えます。伝統芸能の伝承とか、あるいは農業体験とか、あるいは高齢化といいま

すけれども、これは取りようによってはプラスでありまして、子育ての経験とか人生経験、専門的な職業体験等を生かしていただく、そういう方もいらっしゃるだろうと、そういう方を含めた教育力があろうかと。

もう1つは、子どもクラブとか公民館事業とか、そういうように組織的な教育力が1つあろうかと思えますし、今議員おっしゃいましたように、わかかもん会でしていただいているような、地域の有志の方で取り組んでいただいているということも現実に組織的な教育力としてありますし、加えまして、民生委員さんでありますとか、老人クラブの連合会とか青年会議所さんとか、いろんな団体の方で取り組んでいただいている、そういうことを含めて地域の教育力として見ていき、そして自分の地域で特にもっとこんなことはできるのじゃないかなと、そういうことを考えていくことができたというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

いろんな取り組みが行われておりますけれども、「まちづくりは人づくり」と言われております。私も地域でいろんな活動をしながら、まさしくそのとおりだということを実感しております。このことについても市長、どのようにお考えでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私ごとになりますけれども、ちょうど4年半前の冬に武雄のほうに戻ってきて、選挙準備をその即日に開始したときに、そのちょうど1週間後だったでしょうか、川良の市民病院に向かう途中の右手のところの神社で鬼火焚きがあるから来てくんしゃいという話が地元の人からあったんですね。そのときに、5年前鬼火焚きで私が見たこともなかったような光景というのは、行政の人がやるのではなくて、当時、民間人だった山口等議員であるとか、いろんな方々が自発的にやっておられると、これは後で聞いたら川良わかかもん会ということだったんですけど、それに深い感銘を受けました。

そこからすごいのは、私はそこから毎年行くようになったんですけど、毎年毎年火が大きくなって、これ以上大きくなるとどうするのっていうぐらいに火柱も高くなり、そして来られている方々が単に住民の方だけではなくして、よそからも来られているんですね。ですので、それは本当に鬼火焚きという象徴的なことを申し上げたんですけど、人の力というのはこういうことなんだということを役人をやめた私を感じた次第であるので、これは本当に武雄らしいというか、もっとこういったことが広まっていけばいいなというふうに認識をしております。

まちづくりは人づくりから始まるということについて、そして、これはまちづくりには仲

間が必要であるということについても私は山口等議員から最初に教わったことがあるので、これをひとつ私としては恩返しとして、さらに市長として、首長としての立場がありますので、さらに大きく広げていきたいなど、かように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

これからもまちづくり、人づくりについては、地域の活性化につながることでございます。微力ながらこれから先も取り組んでいきたいと思っております。また、このまちづくりは市民と行政が一緒になって前に進めていくことだと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

では、次の質問に移らせていただきます。

2つ目になるんですけど、道路行政、市道の維持管理についてでございます。

私ごとになるのですが、私は約30年間建設業に携わってまいりました。特にこの道路関係におきましても、国の機関を中心に約20年間改築工事等に携わってまいりました。これから、この道路関係についても私のライフワークとして進めていきたいと思っております。

その中で、今回は市道の維持管理のことであります。

昭和40年代後半から60年ごろの日本の高度成長時に社会資本整備が進み、市道の舗装も頻繁に行われました。その舗装が現在20年以上もたっております。舗装の設計、耐用年数は大体10年と言われております。その時期はもう遠くに過ぎ、現在はひび割れ等が多くなり、年間市内全体で約200件ぐらいの補修の要望、苦情等が寄せられております。

また、そのような市民の切実な問題になっておりますので、今後どういうふうにして進めていっていいか、それと現状の写真を撮ってきておりますので、現状の市道の状況でございます。（パネルを示す）これは、ある路線の市道の今の現状です。このように、亀の甲にクラック等が発生しまして、恐らくこれはもうあと何年かすれば、ちょっと通行にも支障が出る、また交通事故等の要因にもなるような状況だと思います。このような状況を市の方はどういうふうにとらえているのか、そのあたりをまずお伺ひします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

細かい説明が必要ならば後で別途担当部長からいたさせますけれども、まず、現状認識は一緒なんですね。昭和40年代からどんどんどんどん舗装を敷設していった道路というのは、ちょうど今、特に橋がそうですけれども、ちょうど今更新の時期に差しかかっている。しかし、私どもについては国からの補助金の大幅な減であるとか、交付税の減であるとか、実際これはライフライン、道路はライフラインだと私は思っておりますけれども、なかなかそ

ったところに手が回っていない。これは武雄市に限らず、いろんなどころの状況でもあるんですけども、私どもといたしましては、これは再三1期目の議会でも答弁いたしておりますけれども、新たに道路をつくるよりは、今あるものを大事に改良していこうということで、予算配分を変えました。今あるものを大切にするとところで変えたんですけど、ただ、これもさきの議会で山口昌宏議員が御質問をされて明らかになったんですけども、さきの住民訴訟の市民負担の関係で、そんなに額は大きくないのかもしれませんが、これは道路の維持管理をするときというのは国の補助金を使うほうがかなり便利であります。

したがって、例えば私どもに1,000万円予算があるとします、市の単費が。そしたら、場合によっては1億円の事業ができるんですね。その根っこの部分の補助金が今国からも減らされ、そして、住民訴訟の関係で市民負担のところからそっちに持っていかざるを得ないということについて、共産党の議員が記者会見までされて行われておりますけれども、今非常に厳しい状況になっているということについては、ぜひ市民の皆様方も御理解をしていただければありがたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

今年度の予算で見ますと、道路費、また土木費の道路橋梁費で、補正後でいきますと7億3,000万円の予算計上でございます。また、そのうち年間の維持工事費が約1億円、そして、この補修関係で見ますと補修面積が大体年間3万平方メートルということで聞いております。その金額は大体5,000万円ということでありますので、この予算でいきますと何十年もかかるというような状況じゃないかと思えます。これではどうしようもございませんので、先ほど述べられた路線等を再度見直しさせていただいて、緊急性のある箇所を把握していただき、整備計画をぜひ立てていただきたいと思えます。そして、現行の予算も土木費の一般道路整備費から何とか捻出させていただいて、土木費の大枠の財源の見直し、こういったところをお願いしたいと思えますけど、どうでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、まず財源の捻出は現状補助制度がないんですね。そこで一般財源となるんですけども、そこでやっぱりひっかかってくるのが、このやっぱり住民訴訟だと思えるんですけど、本当にこれは。もともとパイがふえているときは、どんどんどんどん補助金というのはあるんですけども、これだけ縮小して行って、しかも税収が落ちているといったときに、もう本当に困り果てております。やっぱりライフラインということで道路とか重要でありますので、私はむしろその全体の予算の中から、道路だけに限らず全体の予算の中でこの分をき

ちんと充てましようということについて、きちんとやっていきたいというふうに思っています。

そういった中で言うと、福祉の問題でありますけれども、どんどんどんどん市の単費がそこに充当をしまっています。そうすると、どこを削るんだということについて、ぜひ議会の皆様方にお示ししていただきたいのは、あれをつくれ、これをやろうというのは割と簡単であります。だけど、これをやるからにはこれを削ってほしいということについても、ぜひ議員の立場でそれをお示ししていただければありがたいというふうに思っております。

そして、やはりこれは計画は、ちょっと私は議員と認識は違いますけれども、道路の整備計画といった場合には、新たにつくるときは計画は必要だと思うんですね。しかし、どこを直しましようとかというのは、それは見つけた時点ですぐ直さなきゃいけないということについてありますので、これは命の問題にもかかわりますので、これは私は専決はしません。議会にちゃんとこれは必要だからということでお示しをして、議会の御判断を仰いで、その議会の御判断をいただいた上で私は誠実に執行してまいろうと、このように考えております。

とにかく、道路の補修については本当に命にかかわる問題が多々あろうかと思っておりますので、それはスピードを上げて議会の皆さんとともに解決をしまいたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

この市道に関する問題は、市民の生活に密着した切実な問題でございます。議会で承認を求めるような管理瑕疵も発生しておりますので、今後ともよろしく願います。

また、アスファルトの補修方法についても、単に既設の舗装にアスファルトをかぶせるような方法だけじゃなく、路盤、路床等を改良して、少しでも長もちするような施工方法等の検討もお願いしたいと思います。そして、緊急性のある路線を探していただいて、少なくとも五、六年ぐらいの間にこのような住民の問題がないような状態にしていきたいなということでございます。

次の質問に移らせていただきます。

旧市民病院の活用構想についてでございます。

市民病院は、ことし2月1日より民間移譲しまして新武雄病院となり、来年6月の開院に向け、現在国道34号線沿いに建設中でございます。新しい地に移設してからの現在の病院跡地をどのように活用していくお考えなのか、お尋ねします。

また、新武雄病院までのアクセス道路につきましてもSカーブ等もございまして、また道路幅員も狭く、そういう道路改良も必要じゃないかと思われまして、このことについてお尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、感謝を申し上げたいと思います。今、新武雄病院が国道34号線のバイパスのところでもう基礎工事が終わって、どんどんどんどん今高くなっている、これは本当に当時の議長であられました杉原豊喜議長、そして今議長でありますけれども、副議長であられた牟田議長、そして、市民病院問題特別委員長の黒岩幸生議員さんたちには本当に衷心にして厚く感謝申し上げたいと思います。これは議会の後押しがなかったら、ここまで私はできていないというふうに本当に思っております。これは市民の皆さんたちが本当によかったねということをおっしゃっていただいておりますので、議会の皆様方には本当に心から御礼を申し上げます。

その上で答弁に入りますけれども、病院跡地については、まず、今新武雄病院においては地域住民及び病院関係者から構成される地域医療評議委員会が設置をされ、これは今の新武雄病院の中の運営状況について、住民の皆様方から、これは区長会とか婦人会も入っておられますけれども、そこからこういうふうにしたほうがいい、あるいはこういったことをもつとすべきだということについて意見を伺うということとしています。ここの中で、川良区の代表の皆様方も入っておられます。それとは別個に私としては、これは私の公約でも掲げておりますけれども、みんなの政策集等でも言っておりますけれども、今の跡地の部分には跡地の利用の検討委員会をつくと、これは前々から申し上げております。その中で川良区の皆さんを中心にした武雄町、武雄市民の皆様方に入っていただいて、ここでこういうふうを活用しようねということトップダウンじゃなくて、本当に住民の皆様方の意見に根差した機能の活用を図ってまいりたいというふうに思っております。

そして、これは最後にしますけれども、こういう会が3つあるんですね、先ほど申し上げました地域医療評議委員会と、もう1つが先ほど私から申し上げましたような跡地の利用の検討委員会、これは仮称です。それともう1つが、これは貝原良太医師にも医師会から入っていただいておりますけれども、全体の経営そのものについて、これは私は三者協というふうに申し上げていたんですけれども、やっとこういうことができるようになったと、これについても医師会を初めとして皆さんに本当に感謝をしたいというふうに思っております。

本当に新武雄病院のことに当たっては、もうとんでもない、あること、ないこといろいろ言われました。もう本当に、よく皆さん耐えたと思います。その中で、前向きに今——一部後ろ向きの風が吹いておりますけれども、前向きに進めていくということについて、私は命をかけて進めてまいりたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

市民の要望としまして、1番目に老人・子育て支援センターの設置とか、2つ目に老人介護施設の設置、3つ目に婦人会、老人会、そしてまた若者等が集まる集会場、4つ目に武雄保育所の移転先としたらどうかというふうな、そういった意見もございます。特に武雄保育所の移転については、現在の保育所は昭和48年に建てられたそうでございます。だから築37年になるんですけど、この場所はグラウンド、駐車場等も狭く、そういう状況にありますので、ぜひ移設したらどうかということをおもっております。それと、老人関係とのコミュニケーションも図られて、地域づくりにもつながっていくんじゃないかなということも思っております。このあたり市長、どうでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今、川良にある旧武雄市民病院、もう新武雄病院になりましたので、あえて旧武雄市民病院と呼ばせていただきますけれども、これは市民の宝だと思っております。その宝に魂を込めるために、先ほど御意見のありました介護施設ですよ、老人ホームと言いかえてもいいかもしれませんけれども、あるいは老人会、婦人会、子育て総合支援センター、それと母子連などなど、物すごいスペースがあります。そういった中で入って行って、新たな時代の市民のコミュニケーション、交流の場になることを期待します。そこに、みんなのバスが通ればいいなということも思っております。

その中で、1つ議員と反対なのは、そこが保育所ですよ、武雄保育所、これは厚生労働省の設置基準からして多分できないと思います。なぜならば、1つが場所の確保のほかに、もう1つは併設でいいのかということ、あるいはそれをつくった場合にグラウンドをどうするんだということがありますので、恐らくグラウンドまで含めた設置要件に多分当たらないということは思っていますので、ここに武雄保育所を入れるということは現段階では私は反対ですね。ですので、ただもう老朽化しているのは紛れもない事実でありますし、今のところ民営化をどんどん進めている観点から、これを今すぐ民営化するというのは申し上げませんけれども、やはり公が行う保育の内容というのをこれからちゃんと詰めたと思います。病児保育とか病後児保育とかも含めて詰めたというふうに思っておりますので、そういう意味で既存の民間の保育園、あるいは幼稚園と連携して進めるような公と民の連携を進めていくという観点から、まず機能をよく整理をしたいというふうに思っております。その上で機能に応じた場所であるとか、建物であるとか、そういったことを順序立てて考えてまいりたいと。

いずれにしても、もう昭和48年から非常に老朽化している、私も何度か見に行きましたのでよくわかっております。そういった中で、まず議員の皆様方におかれても、こういうふう

にしたほうがいいということについては、どしどしお寄せいただきたいと、このように思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

いずれにしろ、この跡地の活用の問題は地元区長を初め、地元1番議員の朝長議員もおられます。また、元市議でありました高木佐一郎さんもおられます。そして、稲富県議等も地元におられますので、この方たちと一緒に、また樋渡市長と一緒に前に進めていきたいと思っております。ぜひ、私のこれからのライフワークとしてこのことを取り上げていきたいと思っております。

いずれにしろ、この場所は以前から国立病院、そして市民病院と一貫して人の往来があったところでございます。これからも従来どおり人の出入りがあり、皆さんが潤うような施設に有効活用をしていただくよう、ぜひお願いしたいと思います。決してごみ捨て場、ごみの不法投棄地などにならないように、ぜひよろしく申し上げます。

以上をもちまして、私2番議員山口の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。